

ネットワーク・ガバナンス研究の基礎類型
—行政理論からのアプローチ—

中村祐司

- I. 多様なネットワーク・ガバナンス論
- II. 都市自治体のガバナンス機能をめぐるキース (Keith Dowding) らの見解
- III. ジャン・クウィーマン (Jan Kooiman) らによる「セルフ・ガバナンス論」と「社会ガバナンス論」
- IV. マーク・ベビア (Mark Bevir) による「周縁ガバナンス論」
- V. クリス・アンセル (Chris Ansell) による「ネットワーク政体論」
- VI. 行政実務から見たローレンス (Laurence J. O'Toole Jr.) のネットワーク論
- VII. ビビン・ローズ (Vivien Lowndes) の組織間パートナーシップ論
- VIII. ネットワーク・ガバナンスの基礎類型
 1. ネットワーク・ガバナンスをめぐるマイクロ・メゾ・マクロ研究
 2. 大枠の基礎類型—「自律・分散」「他律・集中」—
 3. 中枠の基礎類型—政策・制度・管理をめぐる「多元化」と「依存」—
 4. 小枠の基礎類型—パフォーマンス成果をめぐる「質」「量」「正当力」「原動力」「継続力」—